

# 左が行く 介護施設探訪!

明日から実践したい  
気づきと学びが  
ここにある。

## 第2回

### 高齢者110番の家地域食堂「きたほっと」

# 自分たちの地域と 命を守るため、 草の根運動を続ける

一般社団法人日本介護協会の左理事長  
が行く全国の介護事業所訪問。第2回  
は北海道の北東部にある人口約12万  
人の北見市。(有)エーデルワイスの代表  
取締役で「高齢者110番の家」の青山  
由美子副会長と、その仲間たちとの座談  
会は熱気に包まれました。(文中敬称略)

#### 高齢者の介護に 悩む人を癒したい

網走から南西に約40キロ。北見市新  
生町は2012年に高齢化率が26%  
に達した、4人に1人が高齢者の町  
だ。老人が老人を介護する「老・老介  
護」や認知症の人が認知症の人を介  
護する「認・認介護」。どこに相談すれ  
ばよいのかと思ひ悩む人も少なく  
ない。在宅介護を続けることで、介護す  
る者、される者の双方が心身ともに疲  
弊し、家族関係が悪化するケースも  
ある。高齢者110番の家は、そんな  
新生町で、悩み苦しむ人々の心を少し  
でも癒せるようにとの思いで、グルー  
プホームや居宅介護支援事業所を運  
営する(有)エーデルワイスの代表取締  
役・青山由美子氏が中心となって、12  
年3月10日に発足したボランティア

団体だ。介護業界関係者が10社程度  
参加している。

主な取り組みは、趣旨に賛同した一  
般家庭や企業が、介護に関する「駆け  
込み寺」であることを示すシールを  
貼って、高齢者や家族の悩みを受け入  
れる活動だ。

シールが貼られた家では、介護を必  
要とする高齢者や家族、認知症の方  
が駆け込んだ時に次の対応を取って  
いる。①認知症の方の住所が分かる場  
合には家族へ連絡②自宅も不明で自  
宅へ戻ることが困難な場合には警察  
へ連絡③福祉の相談場所が不明な時  
には、担当する地域包括支援センタ  
ーへ連絡④体調も異常なく、身寄りも  
なく福祉の相談の場合、地域包括支  
援センター等へ連絡。

現在は北見市内の400軒ほどの

家や事業所に「高齢者110番の家」  
のシールが貼られている。地域食堂

「きたほっと」は、その活動拠点であ  
り、月に2回のオープン時には食堂と  
してカレーやコーヒーを250円で  
下の安価で提供するだけでなく、相  
談を受け付けている。

人のためになる良いことをする上  
でも精神論ばかりでは成立しない。同  
じ志のある方の力を借り、高齢者11  
0番の家が発足した。拠点となる地域  
食堂「きたほっと」のオープンは月に  
2回。制限することで、地域住民の中  
で「きたほっと」の優先順位が上がり、  
多くの人が集まるという。狙いは「向  
こう三軒両隣」の関係を作ること。そ  
の狙い通り、「きたほっと」には絵手紙  
を描きに来る人や、音楽や踊りの発  
表の場になるなど、賑わいがある。「絶



高齢者110番の家を示すシール

対に他人を束縛しない」ルールが、地  
域住民に心地良い空間を届ける要因  
でもある。

#### 高齢者110番の 家を立ち上げた理由は

左 高齢者110番の家はどのよう  
な理由から立ち上げられたのでしょ  
うか。

青山 2012年に開設してから、地  
域の方が雪の日も来てくれます。ここ  
に集まり、みんなで声を掛けあつてい  
ます。「あれ、今日は誰か来ていないよ  
ね」「病院に行っているんじゃないか  
な」と、ここで安否確認もしているよ  
うです。また、ご家族に不幸があり、家  
に引きこもる生活が続いている人に  
声を掛けてほしいとの相談もありま  
す。

#### 幅広いネットワークから 新商品が生まれた

青山氏を中心とする幅広いネット  
ワークから新しいサービスが生まれ  
た。それはGPS(衛星利用測位シス  
テム)を使い、認知症の方の行方を特  
定するサービスだ。開発を担当したの  
は青山氏の仲間で、IT会社勤務の  
伊藤大輔氏だ。伊藤氏は介護保険制  
度開始時に介護報酬関係の請求ソフ  
トを担当したことがきっかけで、介護



GPS搭載で居場所が分かる「おさんぼさん」



思い立ったらすぐ行動が信念の青山氏

青山 数年前になりますが、北海道  
で認知症の方が徘徊した末に川で亡  
くなられた事故がありました。警察  
だけに任せていては限界があり、私た  
ちで探さなければと思い、友人・知人  
に声を掛け、高齢者110番の家と密  
接な関係にある「行方不明から安全  
に戻る事を願う会」ができました。  
さらにセーフティネットを充実させ  
たいと高齢者110番の家を設立す  
る運びとなりました。

なもの苦手でしたが、そういった人  
や、志のある人を味方にしなければ、  
良い取り組みも広がらないと思いま  
した。同じ志の人を1人でも多く求め  
ないと、世の中は動かない。私は、誰も  
やっていないのであれば、介護現場か  
ら世の中を良き方向に変えるチャン  
スだよと考えます。

左 設立当時を振り返っていただけ  
ますか。

青山 立ち上げに関しては、様々な  
場所で行っている人に話を振ってい  
るうちに、周囲が「じゃあ作ろうじゃ  
ないか」と動いてくれました。権力的

左 高齢者110番の家はどのよう  
に機能しているのでしょうか。

青山 認知症には確たる定義がない  
と思います。100人の認知症の方が  
いたら、100人がそれぞれ別の症状  
です。帰れない人もいれば、帰れる人  
もいます。私たちの取り組みが浸透す  
ることで、地域の方が「高齢者110  
番の家」というのがあるんだ」と分かっ  
ていただけたら嬉しいですね。